

感染拡大防止の取組と 地域経済回復の両立を図る予算審議

160億3531万4千円

原案に対する修正案が提出される→可決

修正案の提案理由

旧庁舎跡地活用事業を1事業者からの提案だけの状況で契約価格を契約条件以下の年額101万7千円及び保証金の額も未定のまま容認しなければならないひっ迫した市の財政事情とはいえ、今回提案の事業では、JR宇都宮線を挟んだ東西での子育て支援環境の不均衡が増大する。

また、市は、公共施設統合再編計画及び立地適正化計画の策定中である。このことを踏まえても市有資産のファシリティマネジメント（資産価値・使用価値の最大化とコストの最小化という視点を両立させる経営活動の考え方・方針）が示されているとはいえない。

ついでには、多くの未活用市有資産がある中、市の財政規律という事業の取捨選択・順位付けの基準をもって計画的に利活用を進めているとはいい難いので、本予算の旧庁舎跡地活用事業を市有資産のファシリティマネジメントを踏まえて見直すべきと考える。

原案に反対の討論

予算案の中で、旧庁舎跡地を年間100万円位で、しかも20年間の賃貸は余りにも安価で長期間という点から反対である。更に提案された時点で契約は未だ「未了」で契約金も保証金も「不明瞭」というのは甚だ「不遜」※の契約である。

よってこの予算案には反対する。

※不遜…へりくだる気持ちがないこと。



原案に賛成の討論

旧庁舎跡地には、保育所運営の事業者から提案があったとのことだが、準公共施設である保育所の整備・運営は、本市にとって喫緊の課題である。駅を挟んだ東西での子育て支援環境の僅かな不均衡があったとしても、整備を優先すべきである。



修正案に反対の討論

本市では、3年度も保育所待機児童が20人以上、4年度も解消しにくい状況である。当保育事業者は病児保育や一時保育も予定している。この修正案により、保育所の確保ができなくなり、待機児童の解消が危ぶまれることが懸念され、修正案には反対である。

原案に反対の討論

予算は、実質的に藤井市長就任最初の本格的予算として、意欲的で積極的な予算編成になっている。しかし、同和問題の予算を残し、下水道使用料の引上げや住宅リフォーム資金補助事業予算の廃止など指摘しなければならない問題点があり、この予算に反対である。

原案から旧庁舎跡地貸付料を除いた部分を可決